

平成 28 年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第 1 次）

自立活動に関する科目（I）

（問題 1 ～問題 30 全 30 問）

時間 10 : 00 ～ 11 : 30

注 意 事 項

1. 試験監督者から「解答始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、表紙を除いて 28 ページあります。
3. 解答用紙（マークシート）の指定された欄に氏名、受験番号を記入し、科目名と受験番号の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
5. この試験の解答時間は、「解答始め。」の合図があつてから、90分です。
6. 当該試験開始から終了までは、退室できません。ただし、発病等やむを得ない場合には挙手をし、試験監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子の余白は、下書きに使用しても差し支えありません。
8. 試験監督者から「解答やめ。」の合図があつたら、直ちに解答をやめて鉛筆を置き、問題冊子を閉じてください。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題 1 次のA群の法令の規定とB群の法令の名称の正しい組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 特別支援学校には、小学部及び中学部を置かなければならない。ただし、特別の必要のある場合においては、そのいずれかのみを置くことができる。
- 2 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長は、常に、その学校に在学する学齢児童又は学齢生徒の出席状況を明らかにしておかなければならない。
- 3 特別支援学校の小学部、中学部又は高等部の学級は、同学年の児童又は生徒で編制するものとする。ただし、特別の事情がある場合においては、数学年の児童又は生徒を一学級に編制することができる。
- 4 国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。

〔B 群〕

- A 教育基本法
- B 学校教育法
- C 学校教育法施行令
- D 学校教育法施行規則

〔解答群〕

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | 1—A | 2—B | 3—C | 4—D |
| イ | 1—B | 2—C | 3—D | 4—A |
| ウ | 1—C | 2—B | 3—A | 4—D |
| エ | 1—D | 2—C | 3—B | 4—A |

問題 2 次のA群は、幼児期の操作の発達について述べたものである。一般的な発達の順序に従って配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 積み木を二つ重ねる。
- 2 十字（十）をかく。
- 3 まねて丸（○）をかく。
- 4 ^{ひしがた}菱形（◇）をかく。

[B 群]

- ア 1 → 3 → 2 → 4
- イ 1 → 3 → 4 → 2
- ウ 3 → 1 → 2 → 4
- エ 3 → 1 → 4 → 2

問題 3 障害の原因について述べた次の各文のうち、正しいものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 中枢性の視覚障害は、前頭葉の脳の障害が主な原因となる。

イ 中耳にある蝸牛^{かぎゅう}や半規管の障害は、感音難聴の原因となる。

ウ 肢体不自由の原因となる脳性まひは、運動神経の損傷によって引き起こされる。

エ 知的障害の原因として、医学的に脳障害が認められないものもある。

問題 4 次の規定は、「障害者基本法」(昭和 45 年 5 月 21 日法律第 84 号)の第 18 条の一部である。A 群に示されている語句のうち、① ~ ④ に当てはまる語句として正しい組合せを、B 群ア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

① は、障害者の職業選択の自由を尊重しつつ、障害者がその ② に応じて適切な職業に従事することができるようにするため、障害者の多様な就業の機会を確保するよう努めるとともに、個々の障害者の ③ に配慮した ④ , 職業指導, 職業訓練及び職業紹介の実施その他必要な施策を講じなければならない。

[A 群]

- | | | |
|--------|-------------|------|
| 1 国 | 2 国及び地方公共団体 | 3 能力 |
| 4 適性 | 5 特性 | 6 状態 |
| 7 就労支援 | 8 職業相談 | |

[B 群]

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| ア ①—1 | ②—3 | ③—6 | ④—7 |
| イ ①—1 | ②—4 | ③—5 | ④—8 |
| ウ ①—2 | ②—3 | ③—5 | ④—8 |
| エ ①—2 | ②—4 | ③—6 | ④—7 |

問題 5 次のA群の各文のうち、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月23日、中央教育審議会初等中等教育分科会）の記述に照らして適切なものの組合せを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 インクルーシブ教育システムにおいては、障害のある子供と障害のない子供が、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきであり、特別支援学校、特別支援学級といった障害のある子供のための特別な学びの場は、段階的に縮小していくことが必要である。
- 2 共生社会の形成に当たっては、学校を中核としたコミュニティづくりを進めることに加えて、保護者、親の会等の障害者関係団体、NPO、ボランティア等を巻き込んだ地域の力で、地域において「共に生きる」ことを推進していくことが重要である。
- 3 就学基準に該当する障害のある子供は特別支援学校に原則就学するという、従来の就学先決定の仕組みを維持することが必要である。
- 4 保護者の思いと子供本人の教育的ニーズは、異なることもあり得ることに留意することが必要である。

〔B 群〕

- ア 1・3
- イ 1・4
- ウ 2・3
- エ 2・4

問題 6 次のA群は、我が国の障害者教育・福祉に関する歴史上の出来事を示したものである。古い順に正しく配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 柏倉松蔵が肢体不自由児の療護施設として柏学園を設置した。
- 2 盲啞^あ学校が幼稚園などとともに、小学校に準ずる学校として小学校令に規定された。
- 3 最初の養護学校小・中学部学習指導要領（精神薄弱教育編）が文部事務次官通達により制定された。
- 4 文部省初等中等教育局に特殊教育室が設置された。

〔B 群〕

- ア 1 → 2 → 3 → 4
イ 1 → 2 → 4 → 3
ウ 2 → 1 → 3 → 4
エ 2 → 1 → 4 → 3

問題 7 次のA群の人物が関与した事柄が、B群に示されている。A群のどの人物にも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.)
- 2 フロスティッグ (Frostig, M.)
- 3 クリュックシャンク (Cruickshank, W. M.)

〔B 群〕

- ア 1929年に創設された欠陥学研究所の研究指導者となり、「発達の最近接領域」を提唱した。
- イ 動物の学習行動を研究し、オペラント行動を分析した。
- ウ アメリカのロサンゼルスで、非行児と知的障害児の研究に従事し、障害児教育、特にLD・脳障害の教育に貢献した。
- エ 脳損傷児の心理的特性の研究から、LD児の研究に接近し、教育心理学的アプローチの重要性を唱えた。

問題 8 学校における食物アレルギーの対応について述べた次の各文のうち、
「学校給食における食物アレルギー対応指針」（平成 27 年 3 月，文部科学省）
の記述に照らして適切でないものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで
記号で答えなさい。

ア 学校給食で最優先されることは「安全性」であり，給食の意義を考慮
して，学校では，除去食ではなく，代替食を提供し，弁当対応はしな
い。

イ 学級担任は，他の児童生徒に対して，食物アレルギーを正しく理解さ
せることが必要である。

ウ 緊急時に使用するエピペン®（アナフィラキシー補助治療剤—アドレ
ナリン自己注射薬）は，看護師免許のある養護教諭だけではなく，担任
教諭も使用できる。

エ 緊急時に備えて医療機関や消防機関との連携は重要であるので，教育
委員会だけではなく，学校も医療機関や消防機関との連携体制を構築す
る必要がある。

問題 9 次の各文は、特別支援学校小学部・中学部における自立活動の指導計画の作成と内容の取扱いについて述べたものである。「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」（平成 21 年文部科学省告示第 36 号）の記述に照らして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自立活動の時間における指導は、専門的な知識や技能を有する教師を中心として、全教師の協力の下に効果的に行われるようにするものとする。

イ 重複障害者のうち自立活動を主として指導を行うものについては、全人的な発達を促すために必要な基本的な指導内容を、個々の児童又は生徒の実態に応じて設定し、系統的な指導が展開できるようにするものとする。

ウ 個々の児童又は生徒の実態に応じた具体的な指導方法を、実際の臨床において効果があると評価されている心理療法、感覚訓練、動作の訓練、運動療法等から選定し適用するものとする。

エ 児童又は生徒の障害の状態により、必要に応じて、専門の医師及びその他の専門家の指導・助言を求めるなどして、適切な指導ができるようにするものとする。

問題10 次の文の ～ に入る語句の正しい組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

障害児のための施設や事業は、 に分かれていた体系が、平成24年度から身近な地域でサービスを受けられるよう障害児通所支援と障害児入所支援に再編された。このうち障害児通所支援は、，医療型児童発達支援，，保育所等訪問支援の四つのサービスで構成されている。

〔解答群〕

- | | | | |
|---|--------|---------|-------------|
| ア | ①障害種別 | ②児童発達支援 | ③放課後等デイサービス |
| イ | ①サービス別 | ②移動支援 | ③児童デイサービス |
| ウ | ①障害種別 | ②移動支援 | ③児童デイサービス |
| エ | ①サービス別 | ②児童発達支援 | ③放課後等デイサービス |

問題11 次のA群には、海外の障害者教育・福祉に関連する事柄が示されている。年代の古い順に配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 イタリアのミラノで開催された第2回^{ろう}聾教育国際会議で、口話法採用の宣言がなされた。
- 2 国際連盟が「児童の権利に関するジュネーブ宣言」を採択した。
- 3 世界保健機関（WHO）が「国際障害分類試案（ICIDH-1）」を公表した。
- 4 特別ニーズ教育に関する世界会議で、「特別なニーズ教育に関するサラマンカ声明と行動枠組み」が採択された。

〔B 群〕

- ア 1 → 2 → 3 → 4
イ 1 → 2 → 4 → 3
ウ 2 → 1 → 3 → 4
エ 2 → 1 → 4 → 3

問題12 次の表は、全国の小学校における障害の種類別特別支援学級児童数（平成26年5月）である。表中の①～③に該当する障害の種類として正しい組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

障害の種類	児童数（単位：人）
知的障害	62,591
①	58,376
肢体不自由	3,205
②	1,992
言語障害	1,460
③	1,029
弱視	365

（出典）文部科学省「学校基本調査報告書」（初等中等教育機関・専修学校・各種学校編）

〔解答群〕

- | | | | |
|---|-----------|------------|----------|
| ア | ①学習障害 | ②注意欠陥多動性障害 | ③病弱・身体虚弱 |
| イ | ①学習障害 | ②病弱・身体虚弱 | ③難聴 |
| ウ | ①自閉症・情緒障害 | ②注意欠陥多動性障害 | ③病弱・身体虚弱 |
| エ | ①自閉症・情緒障害 | ②病弱・身体虚弱 | ③難聴 |

問題13 次の各文は、言語指導法について述べたものである。インリアル法の説明として正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 語用論の考え方を基に、子供と大人が相互に応答する中で、学び合い、コミュニケーションの成立を図る言語指導法である。
- 2 イギリスで開発された技法で、手指による動作表現（サイン）と話し言葉を同時に提示することによる言語指導法である。
- 3 ガリペリン（Galperin, P. Y.）の「知的行為の形成理論」に基づく言語教育プログラムである。
- 4 話し言葉だけでなく、ノンバーバルのコミュニケーションの成立を目指す言語指導法である。

〔解答群〕

- ア 1・2
- イ 1・4
- ウ 2・3
- エ 3・4

問題14 記憶について述べた次の各文のうち、正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 ワーキングメモリーは、長期記憶にかわる発展的な記憶モデルである。
- 2 記憶の過程は、符号化（記銘）、貯蔵（保持）、検索（想起）の3段階に分けることができる。
- 3 7歳前後になると、子供自らが繰り返して経験したエピソードは知識の中に取り込まれ、体制化されるようになる。
- 4 自分の記憶過程について自ら認識する能力は、メタ記憶と呼ばれる。

〔解答群〕

- ア 1・2
- イ 1・3
- ウ 2・4
- エ 3・4

問題15 学校教育法施行規則第130条第2項には、「特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは」、各教科等の「全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。」と示されている。この規定上、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部において、合わせて授業を行うことができないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 道 徳
- イ 総合的な学習の時間
- ウ 自立活動
- エ 特別活動

問題16 緑内障について述べた次の各文のうち、誤っているものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 緑内障は、視神経が障害される病気である。
- イ 緑内障の患者に共通することは、眼圧が高いことである。
- ウ 緑内障の初期は進行が緩やかなことが多く、視覚障害があっても自覚されないことがほとんどである。
- エ 緑内障の自覚症状としては、見えない場所が出現する、あるいは見える範囲が狭くなる症状が一般的である。

問題17 次のA群の障害者福祉に関する用語の説明として、どれにも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 アドボカシー
- 2 エンパワーメント
- 3 リハビリテーション

〔B 群〕

- ア グループで行われる自由な話合いの中で、相互に自己開示と他者受容を繰り返すこと。
- イ 偏見や差別などを受けてきた人が、自らの自己決定能力を回復し、自己の内発的能力を発揚していくこと。
- ウ 自分の権利を主張できない人のために、援助者が権利を擁護すること。
- エ 人間的な生活条件から疎外されている人の全人間的復権を図ることを目的とした技術及び社会的・政策的対応のこと。

問題18 次のA群には人物名が、B群には人物に関する障害者教育・福祉に関する事項が示されている。1～4のうちA群とB群の対応関係が正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

[B 群]

- | | | | |
|---|----------------------|-------|------------|
| 1 | アユイ (Hatüy, V.) | …………… | アヴェロンの野生児 |
| 2 | ハイニッケ (Heinicke, S.) | ……… | 口話法 |
| 3 | ターマン (Terman, L. M.) | ……… | マンハイム・システム |
| 4 | クヌーゼン (Knudsen, H.) | ……… | クリュッペルハイム |

[解答群]

- ア 1・3
- イ 1・4
- ウ 2・3
- エ 2・4

問題19 愛着について述べた次の各文のうち、誤っているものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 子供は、愛着の対象となる養育者を、外界を積極的に探索するための安全基地として利用する。
- イ ボウルビィ (Bowlby, J.) は、愛着の連続性や機能を説明するメカニズムとして内的作業モデルを提唱した。
- ウ 愛着の質を測定する方法として、エインズワース (Ainsworth, M. D. S.) による親子関係診断検査が広く用いられる。
- エ 愛着は、子供の自律性や情動制御能力、円滑な対人関係を築くための社会性の基盤となる。

問題20 次のA群は、心理検査について述べたものである。A群1～4のうち、「WISC-IV（ウェクスラー児童用知能検査第4版）」の説明として正しいものの組合せを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 全検査IQと言語理解指標、知覚推理指標、ワーキングメモリー指標、処理速度指標の四つの指標得点が算出される。
- 2 日本版では、5歳0か月～16歳11か月の子供に適用することができ、15の下位検査で構成される。
- 3 検査は二つの回路（聴覚—音声、視覚—運動）、三つの過程（受容、連合、表出）、二つの水準（表象、自動）からなる3次元の臨床モデルをもって構成される。
- 4 DA（発達年齢）、DQ（発達指数）を算出し、発達のプロフィールを描き出すようになっている。

〔B 群〕

- ア 1・2
- イ 1・4
- ウ 2・3
- エ 3・4

問題21 評価について述べた次の各文のうち、正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 個人内評価は、学習の客観的・具体的な目標（基準）を明確に設定し、その目標への到達度を測定し把握するものである。
- 2 ポートフォリオとは、一人一人の子供の学習の過程や成果に関する記録となる資料を、比較的長期間にわたり蓄積・整理した入れ物を意味する。
- 3 絶対評価は、集団内における位置に基づくものであり、相対評価は到達目標との距離に基づくものである。
- 4 相互評価には、集団の中から多様な評価基準が引き出され、学習者相互の学び方の改善につながることや、集団の学習意欲が高まる利点がある。

[解答群]

- ア 1・2
- イ 1・3
- ウ 2・4
- エ 3・4

問題22 次のA群の障害のある子供の指導に関する語句の説明として、どれにも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 モンテッソーリ法
- 2 感覚統合法
- 3 ポーテージ教育法

〔B 群〕

- ア 医師によって考案され、「日常生活」、「感覚」、「数」、「言語」、「文化」の領域に応じて援助が展開される。
- イ 心理学者によって考案され、手段として動作を用い、人の生き方や生活体験が、臨床的にみてより望ましい方向に変化するように援助する。
- ウ 教育行政援助機関に設けられたプロジェクトによって開発された、発達障害幼児やハイリスク児のための早期対応プログラムである。
- エ 作業療法士によって考案され、特に、触覚、固有受容覚、前庭感覚での情報処理を重視する。

問題23 次のA群には、自立活動の区分名が、B群には区分に含まれる各項目の「具体的指導内容例と留意点」（『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』平成21年6月）が示されている。A群の区分に含まれる項目の「具体的指導内容例と留意点」に含まれないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 心理的な安定
- 2 環境の把握
- 3 コミュニケーション

〔B 群〕

- ア 肢体不自由のある幼児児童生徒は、経験が乏しいことから自分の能力を十分理解できていないことがある。自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、他の人に依頼して手伝ってもらうことなどについて、実際の体験を通して理解を促すことが必要である。
- イ 視覚に障害があり、小さい文字等が見えにくい場合には、拡大読書器や遠用・近用などの各種の弱視レンズなどの視覚補助具を効果的に活用することが有効である。
- ウ LDのある幼児児童生徒は、文字や文章を読んで理解することに極端な困難を示す場合がある。このような場合、聞いて理解する力を伸ばしつつ、読んで理解する力の形成も図る必要がある。
- エ 自閉症のある幼児児童生徒は、予告なしに行われる避難訓練や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある。このような場合には、予想される事態や状況を予告したり、事前に体験できる機会を設定したりすることなどが必要である。

問題24 心理発達を調べるために用いられる次の課題のうち、「心の理論」に関する課題として正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 ハノイの塔課題
- 2 サリーとアン課題
- 3 ストループ課題
- 4 スマーティ課題

〔解答群〕

- ア 1・3
- イ 1・4
- ウ 2・3
- エ 2・4

問題25 保健について述べた次の各文のうち、学校保健安全法（昭和33年4月10日法律第56号）及び母子保健法（昭和40年8月18日法律第141号）の内容として正しいものはどれか。次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学校保健安全法で規定されている学校には、学校教育法で規定されている学校のうち、大学は含まれていない。
- イ 養護教諭は、学校保健安全法による規定で小学校に置くことができ、また中学校でも準用する規定がある。
- ウ 母子保健法による健康診査について、満4歳を超えた幼児に対する実施は法律に規定されていない。
- エ 小児慢性特定疾病に関する医療費の助成について、母子保健法の一部改正（平成26年）により条文化された。

問題26 次のA群は、心理検査について説明したものである。B群には心理検査の名称を示している。A群のどれにも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 子供の知的活動を認知処理過程と習得度から測定する。
- 2 作業式検査であり、被験者は言語を使用する必要がない。
- 3 PASS理論に基づき、プランニング、注意、同時処理、継次処理の四つの尺度から構成されている。

〔B 群〕

- ア 田中ビネー知能検査V
- イ DN-CAS 認知評価システム
- ウ 大脇式知的障害児用知能検査
- エ 日本版KABC-II

問題27 循環器の障害について述べた次の各文のうち、正しいものはどれか。

次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 先天性の心疾患でみられるチアノーゼは、血液中の二酸化炭素が増えることにより生じる病態である。
- イ 突然死の原因の一つである不整脈の中には、経過観察することの多いものが含まれる。
- ウ 川崎病による後遺症により、弁膜症を起こすことがある。
- エ 学校生活管理指導表は、それぞれの疾患の特性に合わせて心臓疾患用と腎臓疾患用がある。

問題28 次の各文は、通級による指導について述べたものである。現行の制度として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 通級による指導の対象者には、言語障害者、自閉症者等のほか、弱視者、難聴者、知的障害者も含まれる。
- イ 通級による指導において、特に必要があるときは各教科の内容を補充するための指導を行って差し支えない。
- ウ 通級による指導に係る授業時数は、自閉症者の場合、年間10単位時間から280単位時間までが標準とされている。
- エ 通級による指導は、小学校又は中学校の通常の学級に籍を置く児童生徒を対象とすることから、特別の教育課程によることはできない。

問題29 視機能について述べた次の各文のうち、正しいものの組合せを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 乳幼児の視力測定には、追視法や視運動眼振を利用する方法などがある。
- 2 視野は、眼を動かさずに見ることのできる範囲であり、見る対象の明るさや大きさ・色によって視野は変化しない。
- 3 標準的な視力検査では、3 m の視距離でランドルト環を用いる。
- 4 0.01 未満の視力の場合、眼前で手の動きが分かる場合を手動弁、明暗が分かる場合を光覚弁という。

〔解答群〕

ア 1・2

イ 1・4

ウ 2・3

エ 3・4

問題30 次の表は、特別支援学校（高等部）卒業者の進路状況（平成26年3月）を示したものである。表中①～④に当てはまる障害の種類組合せとして正しいものを、解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

障害の種類	卒業者に占める 就職者の割合 (%)	大学等進学率 (%)
①	36.1	40.2
知的障害	31.1	0.4
②	17.6	28.1
③	17.5	7.0
④	6.5	2.3

(出典) 文部科学省「学校基本調査報告書」(初等中等教育機関・専修学校・各種学校編)

〔解答群〕

- | | | |
|---|----------|----------|
| ア | ①視覚障害 | ②聴覚障害 |
| | ③肢体不自由 | ④病弱・身体虚弱 |
| イ | ①視覚障害 | ②病弱・身体虚弱 |
| | ③聴覚障害 | ④肢体不自由 |
| ウ | ①聴覚障害 | ②視覚障害 |
| | ③病弱・身体虚弱 | ④肢体不自由 |
| エ | ①聴覚障害 | ②視覚障害 |
| | ③肢体不自由 | ④病弱・身体虚弱 |